

～ 酸素は森林が供給する～

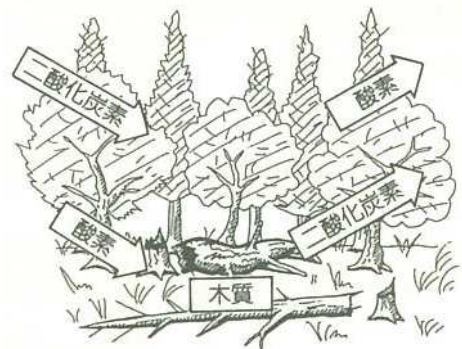
ひとりが1年間に必要な酸素は何本の木があるといいの？

人は呼吸することで1年間に280Kgの新しい酸素を必要とし、370Kgの二酸化炭素を吐き出します。これをまかなうのに木が何本必要かご存知でしょうか？

樹木は二酸化炭素と根から吸い上げた水から、日光の作用で木質を作り、結果として酸素を出します。若い木ほどこの作用は大きく古い木は劣ります。

枯れる木があると木質は微生物の力で分解し、酸素を取り込んで二酸化炭素を大気に戻してしまいます。二酸化炭素を増やさないためには木を適切な時期に伐採し新しい木を植えることです。

【手入れの行き届かない森林】



二酸化炭素を酸素に変える作用は木の種類や樹齢、生育する場所、季節によって違うので一概には言えませんが、例として30年生の直径25cm、高さ20mの杉の木で求めてみます。この木は1年間に平均27Kgの二酸化炭素を取り込み、平均20Kgの酸素を作り出します。

これらから1年間に一人の人が必要な木材は

(ひとりに必要酸素量280Kg÷1本の木が作り出す酸素約20Kg=14本) となります。

日本の総人口1億2000万人に必要な木は何本か？

(14本/人×人口1億2000万人=16億8000万本)が正解。

日本の森林には1ヘクタール当たり約900本の木が生えていますので
 $16億8000万本 \div 900本 = 186万6000ha$ の森林が必要となります。

現在、日本の森林面積は2500万haですから日本人の酸素は日本の森林で補われています。木を腐らすことなく森林を維持していくためには植林～手入れ～間伐～伐採の工程がスムーズに回転していくことが大切です。日本の木材を使って森の善循環に寄与しましょう。

【手入れの行き届いた森林】



「木がわかる」佐道健著より